

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1619号 2001年12月25日(火)

今号は年末のご挨拶だけです。昨年と同じく。昨年の最終号も、12月25日でした。2001年、皆様にはどういう年だったでしょうか。昨年の最終号を読み直しました。

「2000年、そして20世紀もあと少しになりました。ちょうど今世紀の中頃に生まれた人間としては、物心ついたのは世紀の後半でしかないので全部を自分の体験で語れないのですが、恐らく200万年とも言われる人類の歴史の中で、20世紀が一番めまぐるしく変わった世紀ではないでしょうか。最後の2000年もその例に漏れなかった……………」

と書いてある。そうか、去年の今頃はまだ20世紀だったのですね。

確かに20世紀は、「戦争の世紀」などと言われてめまぐるしかった。しかし、今年一年を振り返ってみて「21世紀はもしかしたら20世紀よりいろいろな事が起こり、もっとせわしない100年になるかもしれない」という予感です。せわしいし、確かに緊張も高いから、「癒し」がテーマになる。まあ現在のような状況が続くと言うことです。時間の使い方がうまくないと、流され続けて終わりということになりかねない。気を付けねば。

2001年という年を思い起こせば、あの「ナイン・イレブン」はいつでも頭に浮かんでくるのではないでしょう。あと10年からは。「あのときどこにいたか」「何をしていたか」というのが今でも話題になりますが、そうですね私のケースで考えるとそういう発想で語れて、はっきり覚えているのはケネディが暗殺されたとき、三島由紀夫が自決したなど。公的な事件のケースでは、あまり数多くない。

「ナイン・イレブン」はちょうど赤坂で石頭火鍋を食べ終えた時でした。倒壊は家に帰ってから。ニューヨークは4年も住んでいただけに、もの凄く気になった。直ぐに行ったのも、実際に見たかったからです。同じ事件現場なのに、アフガニスタンにはそれほど行きたいと思わない。住んだことがあるかどうかと言うのは大きい。まあ故郷というのはそういうものなのでしょう。東京には毎日住んでいるし、諏訪にはほぼ毎週帰っているので、今は何も感じない。しかし、海外にでも行って「(東京や諏訪に)何かあった」と聞いたら、行きたくなるのでしょうか。

今年の小生の年賀状文言の一つは、「多事多難な一年でした。来年もそうでしょう。変化を楽しみながら行きたいと思います」です。もうこうなったら、「変化を避けてはられない。楽しむしかない」というのが本音です。自分の身の回りも、世の中もすこぶる素早く展開しそうで、それもまあいいかという感じですな。

「変化を楽しむ」という言葉は昔から好きで、1990年代後半のいつかの年の最終号の最後に書いた思い出がある。確か98年か99年の最後だったと思う。単に見栄えから言うと、「2001」より「2002」の方がバランスが良い。右と左が均衡している。均衡が取れるはずの年と言うことですが、そうなるかどうか。

まあこのニュースの読者の皆さんも、変化を楽しみながら新しい年を迎え、一年をお過ごし下さい。

それでは、良いお年を。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤（03-5410-7657 E-mail ycaster@gol.com）が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》